



高輪だより

令和4年度 5月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

幼児の心もちに寄り添って

園長 柿沼 敦子

園庭の木々の若葉が風に揺れ光っています。進級、入園した子どもたちはこの1か月、新しい生活や環境に相応しく振舞おうと一生懸命に過ごしていました。

倉橋惣三氏の著書『育ての心』をご存じでしょうか。1936年に出版され、今なお保育者や保育研究者の間で最も広く読まれ愛好されているものです。その序文は次の文章で始まります。

「自ら育つものを育てせようとする心、それが育ての心である。世にこんなに楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものとの、互いの結びつきに於いて相楽しんでいる心である」

著書は、愛に満ちた“育ての心”が優しいトーンで綴られていきます。その中で“心もちへの共感”という言葉が出てきます。幼稚園では日々様々な状況に遭遇します。例えば、泣いている子に「あなたは、今そういう気持ち（痛い、悔しい、困っている、悲しいなど）なのね」とありのままを受け止めると、泣き声のトーンは一瞬下がり、ふっと一息つくような様子を見せ、しだいに安心した表情となり心を開いてくれます。また、楽しんでいることへの共感、更なるコミュニケーションの糸口となります。“心もちへの共感”は信頼関係を築くうえで最も大切です。新しい生活が1か月经つと、安心して本来の自分を出せるようになる子、まだ不安な子と幼児それぞれの姿を見せてくれます。担任はじめ教職員は、幼児の心もちをしっかりと受け止め、信頼関係が結ばれる幸せな時間を楽しみながら、子どもたちの自ら育ちゆく姿を支えて参ります。

わくわく ぽかぽか
みんなえがおの
たかなわようちえん



3歳児 はじめての製作活動



4歳児 園内の草花を使った
ケーキづくり



5歳児 地域探検活動
新緑の高輪公園へ

たかなわんだふる
..☆ (0^0) ☆..

すてき!



高輪幼稚園PTAの歌
さみどりの
たかなわのその
ひとときをここに
つどえば
楽しげによりそう
いとしきおさなご
ああわれら
さいわいいのる 父母なり
ふりそそぐ
にちりんその
しろいくもおおぐ
おさなご
ともに 手をとって
かがやくひとみ
ああわれら
さいわいふかし 父母なり

高輪幼稚園の自慢のひとつにPTAの歌があります。歌詞は、子を思う父母の慈しみ深い言葉で綴られ、旋律は優しく上品です。保護者の皆さんが美しい2部合唱でPTA総会やコンサートで歌い継がれています。